地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その51

文：矢部 征男

奥川軌道（トロッコ）と弥生集落

かつて、弥平四郎集落と徳沢駅間約20kmに「軌道（トロッコ道）」が奥川に沿って敷かれていました。これは、大正３年（1914）の磐越西線全通に合わせて建設が計画されたものです。当時「林区」と呼ばれていた国の機関による建設でした。弥平四郎集落下の角間沢（かくまさわ）までは大正７年（1918）に、極入集落の北で分岐する弥生集落を通る久良谷（くらたに）（倉谷）沢への軌道は昭和６年（1931）に開設されています。

トロッコは軌道幅が約76cm、四輪の上に台を組み、２～３人一組となり人力で動かすものでした。弥平四郎集落からは、木地椀（きじわん）や木炭をほぼ毎日徳沢駅まで運び、夜明け前に出ても帰りは夜になる重労働であったとのことです。

トロッコによる木材運搬の様子

奥川軌道の形跡

一方、弥生集落（久良谷沢）方面からの運搬品は、豊富にあるブナ・ナラ・ホウなどの木材が主でした。特にブナ材は、玩具（がんぐ）の原材料としてアメリカへの輸出が好調であったということです。夏休みには子どもが手伝うこともあり、小学６年生の男児が木材を積んだトロッコ間に挟（はさ）まれ亡くなるという痛ましい事故もあったそうです。

現在、鏡山登山者用の町駐車場となる周辺には他県出身従業員の住宅・事務所・倉庫・学校のある「官行村」がありました。一帯からの木材は、極入集落北にある官営製材所へ運ばれ加工されました。昭和29年（1954）に製材所が廃止されると、関係者は他地区へと移りました。奥川村には月６日間だけ軌道利用が許可され、そのため木材や薪炭（しんたん）の販売が好調となり、大きな経済的効果をもたらしたといわれています。

その「トロッコ運搬」も昭和30年代には終了し、昭和40年代13戸79人を数えた弥生集落は平成25年（2013）12月以降、冬期間無住の集落となっています。

今月の表紙

今月は、６月１日に行われた大山トレッキングより。地元ガイドと一緒に大山祇神社御本社まで歩いて参拝するこのイベントは、大山まつり期間中に３回開催されました。

（４ページに関連記事）

編集後記

表紙でも取り上げた大山トレッキング（６月１日開催）に参加してきました。同じ日に参加した皆さんは全員町外在住で、何年も続けて参拝している人や初めて参拝する人とさまざまでした。

天候にも恵まれ、参加した皆さんと談笑しながら楽しく歩くことができましたが、最後の２０２段の石段はやっぱりきつかったです（汗）。

私もいよいよ来年参拝すると３年連続となります。もちろん来年もカメラを片手に参拝するつもりです！私の『なじょな願い』、叶うといいなあ…（秦）

にしあいづ
広報にしあいづ №753　令和３年７月号
発行／福島県西会津町　編集／企画情報課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/
PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。